

ふるさとに学びたくましく生きる子どもの育成 ―元氣 本気で 最後まで―	中期 経営目標	短期 経営目標	目標実現の ための方策	評価指標	目標 値 (%)	達成 値 (%)	達成 度 (%)	評 価	自己評価	関係者 評価	ご意見	改善策
	確かな学力の 定着	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	・読書活動の充実	・1年 15冊／月 2年 20冊／月 3・4年 350P／月 5・6年 500P／月 (達成した児童の割合)	80	67	83	4	読書タイムを中心に読書活動を行い、おすすめの本を読書カードに書き、交流をした。 毎月、読書量達成を継続することができなかったという課題がある。 来年度も、各学年の取り組み方の工夫を交流し、読書意欲を継続させる工夫で改善を図りたい。	A	○朝の時間を使い、学力の他に子どもに力がつく工夫がされている。 ○達成値が67%なので、「4」は高い。 ○達成感を感じることができ工夫が必要。 ○10分の間に5ページ読んでとかにしたら、みんなで目標達成できるのではない。家に帰っても読まない。 ○今後も図書館との連携を進め、読書への関心をより高めていく取組をお願いします。 ○読書タイムの取組を継続してほしい。	○読書タイムや各学級で、達成感をもたせる工夫をする。また、各学年の読書量達成の取り組み方を交流する。 ○今後も継続して、図書館との連携をし、読書活動の充実を図る。
			・帯学習におけるドリル（書き取り・読み取り・計算）学習の継続	・単元末テスト（国語・算数）80点以上の児童の割合 ・三次市学力到達度検査において全国平均を上回る児童の割合	80	79.5	99	4	帯タイムを中心に国語・算数の補充学習に取り組み、概ね基礎学力を定着することができたといえる。しかし、学力テストにおいて、全国平均を上回る児童の割合は55.2%と目標値に届かず、来年度も取組を工夫し、さらなる学力向上を図りたい。	A	○三次市学力到達度検査の結果向上に向けて頑張ってください。 ○全国平均を上回る率が低いので向上を図っていただきたい。 ○基礎的、基本的な学力の定着に向けて地道に取り組まれています。小中で連携して、主体的な学びにつながるように取り組んでいきましょう。	○常清タイム、ドリルタイムの内容の見直しと改善を図る。常清タイムは、これまで通り国語の読む力を中心に進め、丸付けや指導の方法を工夫する。ドリルタイムは、年度初めに各学年の学習内容に合わせた計画を立て、目標をもたせたり記録を残したりすることなど、意欲的に取り組ませる。
		主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善	・「数学的な見方・考え方」を働かせる算数科授業づくり（1人2回以上の研究授業の実施）	・三次市学力到達度検査（算数の活用）において全国平均を上回る児童の割合	80	56	70	3	三次市学力到達度検査（算数の活用問題）の全国平均を上回る児童の割合が56%（22/39）であった。算数の活用について、目標値に届かない結果となった。この結果に基づき、整理分析を行ったうえで授業改善する必要がある。	A	○複式学級が増え、一層の授業改善を行い、学力の定着をお願いします。 ○全国平均を上回る率が低いので向上を図っていただきたい。	○学年の結果から課題を明らかにし、改善の取組を行う。授業の見合わせを計画的に継続し、教員の授業力向上を図る。
	豊かで健やかな心身の育成	自己肯定感の向上	・特別活動の充実 ・教育相談の実施 ・日常的な評価の工夫	・学校生活に関する児童アンケート、i-Checkの「自己肯定感」「思いを伝える」「お互いを認め合う」項目の肯定的回答	80	79.2	99	4	i-Checkの項目において前回比では、全項目数値が下がる結果になった。全校児童が協力し合って取り組む機会を設定や、目標の視覚化など工夫したが、効果が得られなかった。 児童個人が全体場で評価される機会を増やし、認め合える場を設定していくなど工夫する必要がある。	A	○79.2%なら「5」でもよいのではないかな。 ○自己肯定感、思いを伝える、お互いを認め合うことはできていると思います。 ○とても大切な項目である。ここをていねいに取り組んでほしい。評価「4」がうれしく思う。「5」を目指して今後も取組を進めてほしい。	○何事にも目標をもって取り組みせ、評価を重ねることで達成感を味わわせる。 ○日常的な評価の方法を工夫する。 ○たてわり班活動で、児童が関わり合う場面を増やす。
		基礎体力の向上	・体育科授業の改善 ・外遊びの奨励 ・業間体育の実施	・新体力テスト結果のAB率	70	45	64	3	業間体育、サーキットトレーニング等を取り入れ、児童の体力向上を図った。春の新体力テストのAB率は41.3%。秋の新体力テストのAB率は45.5%であった。4.5%の向上が見られる。特に課題が見られたのが、握力、立ち幅跳びだった。握力、跳躍力の向上を図っていきたい。	A	○課題分野の向上への取組と年度ごとの数値状況も資料提供してほしい。 ○スクールバスでの通学で、放課後時間をしっかりとっての遊びができないので原因ではないか。 ○子どもの育ちの根本にあることだと思うが、評価はよい。作木の子どもを育てる機関すべてで取り組んでいく。 ○身体・精神合わせた独自の取組等で向上を図ることや帰宅後の遊び方の調査も必要ではないか。	○体力づくりファイルを活用し、一人一人が自覚的に体力づくりの取り組みるようにする。 ○年度ごとの体力テストの結果を分析し、体力の向上に繋げていく。 ○握力、跳躍力の向上を目指し、業間体育、サーキットトレーニング等の改善に努めていく。
			・生活リズムの改善（小中連携・家庭啓発）	・就寝時刻の目安を守っている児童の割合 ・メディアに関する家庭のルールを設けている家庭の割合	70	51	73	3	スタディウィークの取組から就寝時刻を守ることの意識づけができた。家庭への資料を作成し保護者啓発を行うことができた。 結果に繋がっていないため、引き続き、保健指導や保健だより等で啓発するとともに保護者啓発として全体会などの機会があれば、啓発資料を基に話をさせていただく場を設定する。	A	○目標値が「70%」は低い。「80%」でもよい。 ○スタディウィークは書いているだけで意味がない。自分で決めた時刻とか目標とかならず、ちゃんと守るようにしてほしい。 ○保護者・家庭への啓発・情報提供による連携の継続をお願いします。 ○小中協力した取組にも関わらず難しい項目である。家庭を巻き込む内容は達成が難しい。 ○TVの視聴もですが、タブレットとどううまくつきあっているかが課題だと思います。	○保健指導や保健だより等で児童に向けて啓発していく。 ○資料作成等行い、保護者啓発をしていく。 ○スタディウィークを活用し、児童への意識を高めるとともに、把握した実態に応じた指導を、小中連携しながら行う。
	愛され信頼される地域とともにある学校	積極的な情報発信	・学校・学級・保健便り等の計画的な発行 ・HP更新	・学校評価アンケートにおける学校満足度に関する項目の肯定的評価の割合	85	89	105	5	通信等の発行を計画的に行い、HPの更新を毎月2～3回は行った。情報発信以外の項目を含むアンケート全体でも肯定的評価83.2%であり、概ね高評価である。少数ではあるが、否定的意見があり、内容について把握し、改善する。	A	○保護者との連携が十分にとれていてよい。 ○保護者の否定的な意見を受け止め、今後につなげていくが、学校の取組が伝わっていないのが残念である。 ○保護者もいろいろな方がおられます。コミュニケーション能力を高める努力を頑張ってください。	○今後も通信の発行やHPの更新等、計画的に行いながら、開かれた学校づくりに取り組む。 ○保護者との連携については、課題解決のためだけでなく、これまで以上に日常的によいところを認め、伝えていく努力をしていく。
		作木ふるさと学習の充実	・オリジナルカリキュラムの評価改善	・学習後の振り返りで「作木のよさを知り大切に思う」児童の割合	90	86	96	4	作木ふるさと学習として、1年「常清滝」2年「まちたんけん」3・4年「ブッポウソウ観察」5年「森づくり」6年「作木の町を知ろう」を実施した。学習を通して、作木のよさを知り大切に思う心情を育てることができた。来年度も地域と連携しながらふるさと学習を進めていく。	A	○「5」でもよいのではないかな。 ○学ぶだけではなく、それを生かせるようにしてほしい。 ○地域の方々をたくさん活用してください。 ○作木の資料館を季節のよいときに利用できるよう、先生方に教材研究していただきたい。 ○100%を目標に取組をお願いします。 ○作木のよさを学ぶ学校の取組をこれからも続けてほしい。	○作木のよさを知り、大切に思う心情を育てていくために、今後も継続して取組を進める。 ○複式学級が増加していく現状を考え、学習内容が重複しないよう計画的に取組を進めていく。
		子供と向き合う時間の確保	・業務の精選と効率化 ・一斉退校日の設定 ・職員の意識改革	・「子供と向き合う時間を確保している」「自分は業務改善を進めることができた」と回答する職員の割合	80	76	95	4	毎週の一斉退校日は、定着してきた。また、在校時間の縮減も実施できた。業務改善アンケートの結果は子どもと向き合う時間の確保83%、業務改善67%であった。具体的な取組により時間確保の必要性に対する意識は高まっている。校務の精選をさらに進めていく必要がある。	A	○子どもと向き合う時間の確保は、これからも続けてもらいたい。 ○教職員が意欲を持ち、児童に向き合える大切な項目である。「4」は高評価。退校時間と業務時間を確保することが、うまくバランスがとれることを望む。	○教職員の意識改革はできているので、時間確保のためのスキルを育成していく。そのため、業務整理や効率化に向けたスキル向上を教職員間で共有しながら進めていく。